



# その想い



第3号

発行人：谷泰智  
28年3月1日発行

## ★巡りくる春に



木へんに春と書いてツバキですが、護国寺の庫裏玄関前の椿もすでに咲広がってきています。

毎年同じ木に同じように花を咲かしても、その色合いと形は去年に比べると微妙に異なって、今年は今年の花が咲いています。

ところで、諸行無常という言葉はどこか儂い響きを人に与えますが、少しずつ暖まり始めた季節の中で、椿の花を通してこの言葉の意味を考えると、この言葉がもつ矛盾した不变性に、改めて頭がボーッとしてきます。

変わらないように見えて変わっているのか、変わっている事の繰り返しが変わらないのか・・・。

そしてそれら変化の入れ替わりの中にある、億千万の別れと出会いもこの春を境とし、我々はそのどちらにもまた一歩、足を跨いでゆきます。どうか今年の春も、一切衆生の営みが色様々な輝きで莊厳されますように・・・。南無



1月19日の大雪の日  
ツツジと雪景色の不思議な風景

## ★寺のホームページが動き始めました！ URLは gokokuji.site だけでOK

長年構想してきました、護国寺のホームページが完成し、住職の日記めいたものも日々更新されています。寺の事だけではなく大瀧山はもとより、広く加茂、日高、佐川の中のいろんなことを取り上げて行きたいと思っています。

寺院のホームページは全国多々ありますが、そのほとんどは観光寺院のものです。そこで、自坊のような地方の取るに足らない寺院が何を発信するものがあるのか？と、思われるかもしれません、こんな小さな寺だからこそできることがあると私は確信しています。

タイトルは『一地方寺院の挑戦』と宣う、いささか力みが入ったものではありますが、昨今の葬式仏教からの脱却と、寺院が果たせる新たな可能性を模索すべく、手探りと体当たりで精進しております。地域の発展無くして寺院の興隆は在り得ず、また仏道の啓発が護国寺周辺地域の活力のほんの1%にでもなればと、おこがましくも考えております。

「仏教を学ぶって、なんか変な信心でも興さないかんがやない？」 「結局、金取るばっかりやお？」などのヤジは、とうの昔からこの私自身が人一倍胸に抱いていましたので、『有り難さ』だけに頼った人集めは一切しないつもりです。

皆さんの人生も私の人生も、それぞれ皆さんにとって私にとって、『そう有ることが難しい』それを解るようになることが、本当の『有り難さ』の意味だと私は思います。

※ インターネットだけでなく、紙媒体での活動も並行して益々活発にして行きます。



\*タイトルの梵字は、オンマニペメフムと読むマントラ（真言）です。  
意味は『蓮華の中の宝珠に幸あれ』という意味です。仏法興隆を願ってつけました。

# ★ 回りて向かう～供養のあれこれ～

## ・仏教の中の向きと数

仏事に関連した『向き』や『数』についてのご質問をよく受けます。

例えは葬儀や法事の御仏前でのお参りの時、焼香は何回なのか？線香は何本か？また、御仏壇を新調されてお部屋に据え置く時の向きについてや、お墓の並び等々・・・。畏れるべき対象であるからこそ、あれこれと思案が尽きず、また巷に溢れる言説や風習の違いなどにより、いったいどうすればいいのか判断に迷うことが多いのです。

結論から申しますと、広義の仏教に於いては前出の疑問も含め、『向き』『数』に関してのこだわりや忌避は一切ありません。

しかし、現実の焼香の場面などで僧侶や年配の家長からチクっと諫められた経験を持つ方は多いと思います。では何故そのような矛盾が起きるのか？それは各宗派の開祖や中興の高僧達がそれぞれに用いた『布教の工夫』とも言うべきものをあくまでも尊ぶ故の結果なのです。

まず、『数』について述べると、そもそも今から2000年以上前、お釈迦様が入寂されて数百年になる頃の仏教は、如何に悟りに近づくかという実践的な方法論をあれこれと列举し、それを丸暗記して更に議論を深めるというものでした。

そうすると例えば、3と言えば仏・法・僧、4と言えば生・老・病・死、6と言えば六道輪廻というふうに私が知る限りでも、1から10のそれぞれに洩れなく様々な仏教思想を当てはめています。日本人は特に4や9を死と苦に関連づけてしまう傾向がありますが、本来の仏教では四聖諦（4つの聖なる真理）、九品往生（阿弥陀仏が持つ九つの救済方法）などが古くから日本の僧侶にも認識されていたのであり、とくに忌むべき数字というわけではなかったのです。

むしろ、焼香の回数や線香の本数など仏教徒の日常儀礼に、それらの分類的な仏教学を結び付けることにより、難しい解釈や列举主義の煩雜性を飛び越え、一般の人々にも高度な意識付けを促そうと、各宗派が趣意を凝らし教理を深め、やがて伝統となり今日に至っているのです。

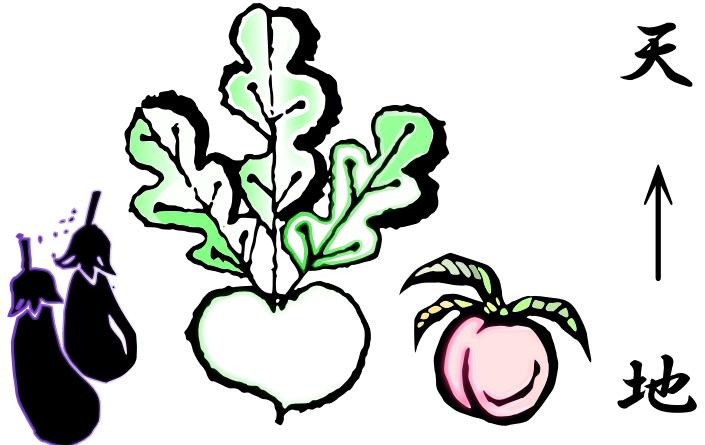
次に『向き』についてですが、大乗仏教には東西南北を八方に分け、それに上方下方を合わせた十方の世界を想定し、そのそれぞれに無数の諸仏を配当し、その諸仏がめいめいに過去現在未来に渡って説法をしているとする壮大な宇宙観があります。アシュク フダラク

したがって西に向かえば阿弥陀仏が、東に行けば阿閦仏が、南海には補陀落浄土、北から出れば聖者の道が・・・、というふうに東西南北それぞれに優劣はないです。また、仮に御仏壇を西向きに置くとすれば、ご先祖様の位牌が阿弥陀さんの世界を向くということになり、反対に西を背にして置くとすれば、我々が西方の阿弥陀さんに向かい、また位牌に向かうことになります。これらは相対するようですが、どちらも施主が西方極楽浄土を意識してご先祖様の事を想いやつてのことですから、どちらも素晴らしいのです。

ただ一点、お供え物の天地の向きについては、我が宗派では他宗よりうるさく言われております。

このページの一番上のイラストにも在りますように、果物や野菜をお供えする際、可能な限りそれらが実際に畑で実っている状態で仏前に供えるようにと、私も指導を受けました。イチゴなどはそのようにするのが無理ですが、よくミカンや柿はヘタを下にしてお供えされていますが、出来うるならばヘタを上にしていただけたらよろしいかと思います。

左の五重の塔のように、日本の寺院建築や伝統美術の中にはたくさん様々な『数』や、敢えてそうしているという『向き』が、その最初に込められた理由が忘れ去られても尚、言葉無き先達として我々を導いてくれています。所作の理由を知り得ずとも、佛祖先人の智慧の道を我々は辿っているのです。



# ★ 檀家さんに聞く



佐川町竹ノ倉集落の奥に、国道からは見えない桜の名所があることをご存知でしょうか？

廣瀬公園と名付けられたその場所には、100本以上の桜とたくさんの種類の花木が、野鳥たちの渡会に蕾を揺らしながら、今年も穏やかな春を向かえつつあります。

長竹竹ノ倉在住の  
廣瀬義勝さん



予約をすれば無償で貸してくれる宴会小屋。  
電気も来ています。(撮影時は瓦の工事中)



「小屋から見よったら、桜の密を求めてメジロとシジュウガラが一緒になつてやって来てねえ、木から木へ移って行くのをのんびり眺めたりするのも良いもんよ・・・。」



撮影 大山征彦さん

坊 小屋を直しますか？

廣 それこそ昨日、瓦の見積もりに来てもうちょっと。もう花見時が近づいてきたき、へんしも早よう仕上げないかん。

坊 そもそも、どうしてここを公園にしようと思うたがですか？

廣 大昔はここはこんなに開けてなかつて、木が茂つて岩がゴロゴロしたところやつた。ワシが小学生の頃、今小屋が建つちゅう場所の地面が一枚岩になつちよつて、そこで姉らあと一緒に御弁当を食べたことがずっといい思い出やつた。

廣 それに子供の時から自然の中で庭を造つたりするのがうんと好きやつたわね。それでいろいろ理想があつたけんど若い時は生活に追われゆうしすぐにはできんかった。けんどう余裕ができるからユンボで道をつけてもうたり、自分で石垣ををついたりしてちょこちょこ広げていつたがよ。

坊 見たところ桜もいろんな種類を植えてますねえ？

廣 ヨウコウ、カイドウ、ヒヨウタン、ソメイヨシノ、いろんなのがあるで。造園やさんに「儂よりよう

知つちゅうのう！」って言われる（笑）。

坊 こればあ広かつたら草刈りが大変でしょう？

廣 草刈りはぞんがい大変やね、ワシももうよう刈らんたき専ら孫にやってもらひゆう。今は口と金を出すばあやけんど、それでも家族が嫌な顔せずに手伝うてくれるき助かっちゅう。

坊 これから計画はありますか？

廣 実は新たに2間、3間の東屋を建てとうて資材を干して乾かしゆがやけんど、どうにも資金不足で行き詰まつちゅう（笑）。

坊 でもちよつとずつやるのも良いもんですよね。

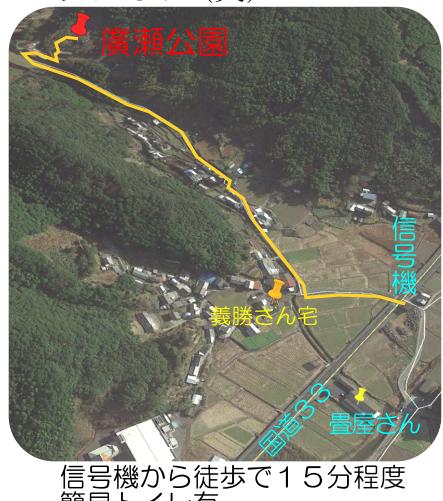
廣 それがもう年がいったら貯まらんわねえ（笑）。若い時は何とか融通が利いてヘソクリしていきよつたけんど・・・。それにワシももうあっち向いて行きゆう身やき、今やらにやあとは思うけど・・・、なかなか踏ん切りがつかん。

坊 来年の春にはできたらえいですねえ。

廣 来年の春ち、今年の春にやつちよかんかつたらワシやもう生きておれんきに（笑）  
そりあえらい急ピッチですねえ！（笑）



この道の両側がピンクに色付くのは  
3月下旬から4月初旬です。（多分）



信号機から徒歩で15分程度  
簡易トイレ有  
廣瀬公園  
義勝さん宅  
貴屋さん  
信号機



# お経のことば



お前はすぐに往き、その女人にこう言え、『私の言葉は真心よりで嘘はありません。生まれて以来一度も人を殺めたことはありません。これを本当だと思えば、お腹の子は必ずもうじき生まれます。安穩で何の心配もありません。』と。

**鳩掘摩経  
訳 つばめ堂通信**

方便という言葉の本当の意味をご存知でしょうか？『嘘も方便』とはよく使われる諺ですが、現代では『都合の良い悪意のない嘘』のように解釈されています。そもそもの由来は前回でも紹介した法華経の中に方便品という章があり、それが『お釈迦様はいろんな表現を巧みに用いてあらゆる人々を教化していく』という内容であることから生まれた言葉です。今回のお経のことばは、真の方便とも言うべき一節をご紹介します。

オウクツマ

阿含部と呼ばれる原始経典群の一部に属する鳩掘摩経は別名『アングリマーラの物語』として有名です。その大きな理由は、実はアングリマーラが元殺人者であるからです・・・。

かつて悪い人間にそそのかされて99人もの人間を殺めてしまった彼は、100人目に手をかける間際にお釈迦様に出会い弟子となり、心から悔い改め改心し、道行けば人々からの侮辱やリンチの目に合うも、それを自らの報いであると耐え忍び、修行を続けていました。

そんなある日、托鉢先で出会った妊婦が予定日を過ぎてもまだ前兆が無いことの不安から、彼に救いを求めてきました。過去に多くの人の命を奪ってしまった彼の心には深い自責の念があり、またそんな自分に人を救う資格など無いという思いもあったのか、彼はお釈迦様に自分はどうすればよいのか教えを乞います。そんな彼に向けてお釈迦様が言わされたのが上の言葉です。

当然アングリマーラは戸惑います。すると、お釈迦様は彼を諭すのです。「前の生涯とは世を異にして、今の生と同じではない。 教えたように言っても、これで嘘とは為らないのだ。 このように時の違いを用いて彼の女の災難を救え。」

・・・何と勇気を与える言葉でしょう。アングリマーラはすぐさま妊婦のところに戻り、お釈迦様が云われたように言いました。すると言い終わらぬうちに陣痛が始まり、無事元気な赤ちゃんが生まれたのでした。

お釈迦様のこの意外な返答にはいろんな解釈ができますが、私は初めてこの物語を読んだ時、あまりの感動で本当に涙しました。

99人もの人間を殺したアングリマーラの罪は、確かに計り知れないほど重いのですが、そのことに苛まれ続け目の前の妊婦の不安さえ拭えない彼に、お釈迦様の理屈を超えた方便の喝が飛んだのではないでしょうか。

このように真の方便とは、人の魂を揺さぶり勇気を与え善を成す言葉なのです。この話で本当の意味で救われたのは妊婦でもお腹の赤ちゃんでもなく、かつて99人もの人間を殺めてしまった一人の僧侶の心ではないでしょうか。



- 3月21日(月)(祝日) 献茶彼岸会  
午前10時 と 午後2時
- 4月24日(日曜日) 大瀧山でヨガをする日  
大瀧山の頂上にて、自然の中でヨーガをします。
- 毎月28日 柱源護摩供とヨーガ体操(無料)

本堂の護摩壇で炎を上げて祈祷と供養をしています。  
午前9時と午後3時の2回です。・ヨーガ体操については別紙参照  
※葬儀が重なると変更される場合があります。ご了承下さい。

護国寺

781-2155

高知県高岡郡日高村九頭291

☎ 0889-24-7244

ホームページ [gokokuji.site](http://gokokuji.site)

仏事に関するお悩み、ご質問、  
行事に関するお問い合わせ等、  
お気軽にお電話ください。

